

## 環境審議会循環型社会構築部会報告

## I 新循環のまち・ふくおか基本計画の進行管理について

## 1 平成 28 年度実績について

## (1) 家庭ごみ

人口が毎年約 1%増加する中、新聞発行部数等の減少により地域集団回収等の古紙回収量が減少傾向にあるものの、市民の 2 R (リデュース・リユース) を始めとした 3 R への取り組みにより、1 人 1 日当たりのごみ処理量 (原単位) は減っており、ごみ処理量はほぼ横ばいとなっている。

## (2) 事業系ごみ

経済状況の好転や交流人口の増加によって、ごみ発生量は増加しているとみられるが、延床面積 1,000 m<sup>2</sup>超の特定事業用建築物における所有者等への減量指導により、古紙や食品廃棄物のリサイクル量は増加傾向にあり、ごみ処理量はほぼ横ばいとなっている。

## 2 今後の取り組みに対する意見等

	意見	今後の対応等
家庭ごみ	蛍光灯・乾電池の回収拠点数が他都市と比較して少ない。市民の利便性を考慮し、身近な拠点を増やすべきではないか。また、新たな拠点を設置した際には、その広報にも力を入れるべきではないか。	今年度は回収拠点数を昨年度の倍の約 60 か所とする予定であり、その場所については、市民の利便性や回収効率を考慮して選定しており、併せて広報も行っていく。
	エコバッグは浸透してきているが、レジ袋の 1～3 円の負担を感じていない人もいて、二極化しているのではないか。	出前講座、環境フェスティバル、SNS 等あらゆる手段を用いて啓発を継続していく。
	年中同じ内容の広報ではなく、季節ごとに強化期間を定めるなど、メリハリをつけた啓発が必要ではないか。	引越しや大掃除等の時期に適した 3 R の広報に取り組む。
	ごみ減量に取り組む必要性やメリットについても説明が必要ではないか。また、温暖化問題と結びつけて、環境問題を総合的に話せる人材育成が必要ではないか。	小学校、出前講座、3 R ステーションなどでの環境学習の場において、ごみ減量が温暖化を含めた環境問題の解決につながっていくことを説明していく。
事業系ごみ	紙おむつのリサイクルについて、どのように取り組んでいくのか。	新たなリサイクル手法に関する研究が行われており、その状況を注視していく。
	古紙資源化施設へ効果的に誘導するためには排出事業者へのアンケート調査等が重要である。また、食品廃棄物の資源化施設が誘致された場合は、既存資源化事業者への影響を考慮する必要があるのではないか。	古紙については、効果的に誘導するため、排出事業者の意見を取り入れていく。また、食品廃棄物については、発生量を考慮しつつ、計画的な施設整備となるよう誘致を進めていく。

## 3 その他

事務局より、事業系ごみ減量のための重点的な取り組みについて、本部会を複数回開催し、集中的に審議していくことを申し出、了承された。

## 4 循環型社会構築部会出席者

日時/会場：平成 29 年 8 月 29 日 (火) 10:00～11:30 / TKP ガーデンシティ天神 8 階 M3  
出席者：松藤 康司 委員 (部会長)、久留 百合子 委員 (職務代理者)、阿部 真之助 委員、小出 秀雄 委員、田中 綾子 委員、松野 隆 委員

## II 事業系古紙資源化の誘導策検討について

### 1 概要

事業系ごみの減量に向けては、平成 27 年度の環境審議会において、「古紙の選別・資源化施設の整備により、事業系古紙を定期収集するシステムを構築し、事業系古紙の資源化を推進する」等の重点的な取組みについて報告している。

そこで今回は、効果的な古紙資源化誘導策を検討するため、古紙資源化の現状や他政令市の先行事例を説明し、委員から意見を伺った。

### 2 意見

- (1) 事業系ごみは、「燃えるごみ」「燃えないごみ」の 2 分別となっており、資源化を促進するような制度になっていない。
- (2) 排出事業者がいかに簡単に古紙を排出できるかが重要であるため、排出事業者の意見を聞いて検討すべきである。
- (3) 古紙分別に取り組むメリットを排出事業者がいかに周知していくかが重要であり、周知・啓発方法を工夫しなければ排出事業者の分別は進まない。
- (4) 古紙を製紙工場に売却するまでの流れしか検討していないのではないか。福岡市で回収した古紙による再生品を排出事業者に還元する等、排出事業者の分別協力が得られやすくなるような仕組みづくりを検討すべきである。
- (5) 他政令市の誘導策については、現地調査により詳細な状況を把握する必要がある。

### 3 今後について

事務局において、排出事業者の意見聴取を実施するとともに、他政令市の現地調査を実施することにより、課題や対応策を整理し、今後の部会に古紙資源化誘導策の案を提出することとなった。

### 4 循環型社会構築部会出席者

日時/会場：平成 29 年 9 月 26 日(火)9:30～11:00/エルガーラホール 7 階 多目的ホール

出席者：松藤 康司	委員 (部会長)	平 由以子	委員
久留 百合子	委員 (職務代理人)	田中 綾子	委員
浅野 直人	委員 (会長)	中山 裕文	委員
阿部 真之助	委員	松野 隆	委員
小出 秀雄	委員		